

第3章 評価の結果に対する対応方針

(1) 「地球規模水循環変動に対応する水管理技術に関する研究」

評価結果を踏まえ、本研究において国総研が行う研究内容を明確化、重点化した上で気象庁をはじめとする関係機関との連携体制を構築し、効率的に研究を推進していきたい。

また、洪水予測等の予測誤差をさらに小さくするために、本研究以降において解決が必要な具体的な課題を整理しつつ研究を進めることとしたい。

その他ご指摘いただいた事項については、十分に念頭に置いた上で、研究を進めて参りたい。

(2) 「水域における化学物質リスクの総合管理に関する研究」

評価結果を踏まえ、総合科学技術会議の長期的研究計画の中での本研究の位置づけを常に念頭に置きつつ、本研究としての成果を得るよう努めて参りたい。

また、他分野の関連情報を視野に入れながら、国民に分かりやすいリスクコミュニケーションツールの開発を進めて参りたい。

その他ご指摘いただいた事項については、十分に念頭に置いた上で、研究を進めて参りたい。

(3) 「かしこい建築・住まいの実現のための建築技術体系に関する研究」

評価結果を踏まえ、建築・住宅が具備すべき性能をどのような高度な技術的対応で確保し、それによってどのようなメリットを得るかという研究のブレークスルー目標を早期に設定し、IT等の最新の技術開発動向を常に留意しつつ、その目標実現に至るための研究開発のシナリオを明確化・具体化することによって目的的に研究開発を進めていきたい。

また、既存建物の保有性能の向上への応用については、研究の進展を踏まえつつ、適切に検討して参りたい。

さらに、人的要素を含めた制御手法の導入、省エネ等を含む制御対象性能の総合化、各種機器のメンテナンスの考え方等その他ご指摘いただいた事項についても、関連する技術のフィジビリティを的確に把握しながら総合的に取り組んでいきたい。

(4) 「東アジアの航空ネットワークの将来展開に対応した空港整備手法に関する研究」

評価結果を踏まえ、東アジア諸国との連携も意識して実施していくとともに、長期的な視点からの幅広いシナリオ設定に基づく提言や政策決定のための材料提供を目指し、また、需要予測手法の公開やその不確実性の表現についても検討していきたい。

その他ご指摘いただいた事項については、十分に念頭に置いた上で、研究を進めて参りたい。

(5) 「マルチモーダル交通体系の構築に関する研究」

評価結果を踏まえ、過去の研究成果や社会実験等によって得られている知見（失敗例や問題点等）を十分に活用して、実現性を意識した成果を得るよう研究を進めていきたい。

このため、制度技術的な面に踏み込むことについては、本プロジェクトを構成する各研究項目の具体的な目標設定を行い、関連分野や関係機関と適切に連携して研究を進めたい。

また、国際競争力の強化に資するように、国際貿易の玄関口としての国際港湾や国際空港の機能強化に向け、国内輸送ネットワークとの効率的なリンクは勿論のこと、アジア地域での貨物の流動、近隣諸国でのインフラ整備なども考慮した適正な配置計画の策定を目指していきたい。

さらに、地方都市におけるマルチモーダル交通体系の可能性については、都市特性や交通基盤施設の整備状況に応じて、フレキシブルなバス交通の運行や自動車共同利用システムの導入等で、端末交通の選択肢拡大・公共交通の利用促進に向けた提案を目指したい。

その他ご指摘いただいた事項については、十分に念頭に置いた上で、研究を進めて参りたい。